もし俺の学校がテロリストに占拠されたら

セセラギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もし俺の学校がテロリストに占拠されたら

【Ｎコード】
Ｎ０５２９Ｑ

【作者名】
セセラギ

【あらすじ】
割と妄想したことがある人が多いだろうこれを短編小説化してみました。

いつも通りの退屈な授業。

隣の席の紗耶香ちゃんは可愛い。

こんな子と付き合えたら幸せだろうに…。

『秀和くん…もう我慢できないよぉ…』

『ふふふ、紗耶香ちゃん、いっぱい中に出してあげるからね…』

ああ、妄想が膨らむ。

突然廊下が騒がしくなり悲鳴が聞こえた。

何事かと思っていると思いきり教室のドアが開いた。

「我々はテロリストだ！この学校は我々が占拠した！お前らは人質としておとなしくしてもらう。騒いだりしたら容赦なく殺す」

迷彩服にゴーグル、機関銃を持った男達がドタドタと教室に入ってきた。

「な、なんだおまえら…！」

「うるさい！黙れ！」

機関銃の激しい音とともに先生は蜂の巣になった。
確認しなくてもすでに絶命してるだろう。
隣の紗耶香ちゃんが怯えている。
くそっ、こいつら許さない。
秀和は自分の席から勢いつけて飛び出しテロリストへと痛烈な蹴りを浴びせ機関銃を奪った。
すぐさま機関銃を構えテロリスト達へと向けて発射。
反撃する隙をあたえず教室に入ってきたテロリストを一掃した。
「おい！男子ども！早く死んだこいつらから銃を奪って構えろ！銃声を聞き付けて他のテロリストが来るぞ！」
秀和の声で男子数名が銃をかまえた。
「よし、こっちに向かってくる足音が聞こえる…俺の合図で入り口から廊下に向けて引き金をひけ…壁なんて機関銃の弾は貫通するから…いまだ！」
秀和の合図で一斉に弾が発射される。
近付いてきたテロリストは一気に地面へと倒れ伏した。
「次は階段横で待機だ！上の階や下の階からきたテロリストをヤル」

銃を持ってる男子を引き連れ階段横で息をひそめる。
「俺が囮になってテロリストの前に姿を見せる。油断してるテロリストをうて」
階段からテロリストの足音が近付いくると秀和は手をあげた状態でテロリストの前に姿を見せた。
「少しでも怪しい動作をしたら殺すぞ！」
テロリストがそう叫びながら秀和に近付く。
「うて！」
秀和の合図とともにクラスメート達が機関銃を放った。
完全に油断をしていたテロリストは呆気なく絶命した。
「これで全員か…？」
「いや、まだだな」
クラスメートの質問にそう答えると秀和は倒れているテロリストから無線機を取り出した。
「全員に告ぐ。緊急事態だ。至急屋上まで応援を頼む」
無線機に向けて言葉を発した。
「了解した。すぐに向かう」

無線機から返事が来る。

「よし、あとは残りのテロリストが屋上に行くのを確認して閉じ込める」

屋上へつながる階段を覗いていると数人のテロリストがあたりを警戒しながら階段をあがっている。

「よし、これで全員っぽいな」

秀和はそうつぶやくとまた通信機を取り出した。

「他のテロリストは我々が皆始末した。残りは屋上にいるお前らだけだ。すでに階段下で銃をかまえて待機している。屋上から武器をすべて捨て降伏すれば命だけは助けてやろう」

窓から屋上を眺めるとテロリスト達は皆武器を捨てゴーグルを取り上着とズボンを脱いで両手をあげた。

「これでもう大丈夫だな」

秀和がそうつぶやくとクラスメート達から歓声があがった。

「秀和！お前がこんなにすごいやつだったとは！」

「お前がクラスメートで本当によかった！」

「皆が無事で本当によかったよ」

軽く笑いながらそう答える秀和に一人の女の子が近付いた。
秀和が好意をよせている紗耶香であった。
「秀和くん…助けてくれてありがとう…すごくかっこよかったよ…前からあなたのことが好きでした。私をあなたのお嫁さんにしてください」
「ありがとう…俺もおまえのことが気になってたんだ。一生おまえを幸せにするからな」
クラスメート達から一斉に祝福の声が浴びせられる。
「キース！キース！キース！」
突然のキスコールが沸き起こる。
「おいおい、みんな恥ずかしいじゃないか…やめてくれよ、ハハハ」
「んっ…私は心の準備できてるよ…」
「紗耶香ちゃん…じゃあ…いくよ…」
秀和が紗耶香を優しく抱き寄せた。
「こら！秀和！起きろ！」
「紗耶香ちゃん…一生きみを愛するからな…ムニャムニャ」

「秀和！いい加減にしろ！」

「……ん…？うわあああ！先生死んだはずじゃ！」

「勝手に殺すな！」

「あ、あれ？教室？あれ？紗耶香ちゃんは？」

「紗耶香くんがどうしたって？おまえの隣にいるじゃないか」

「紗耶香ちゃん！愛してるよ！」

「いつまで寝惚けとる！目が覚めるまで廊下に立っとれ！」

クラス中から笑いが起こった。

今日も秀和の１日はいつも通り平和である。

（後書き）

細かいことは気にせず思いついたままにぱぱっと書きました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0529q/

もし俺の学校がテロリストに占拠されたら

2011年1月16日00時53分発行